

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2001. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 209

日本野鳥の会 埼玉県支部

オオハムとシロエリオオハム Part 2 の識別

榎本秀和（鴻巣市）

◇はじめに

今年2月25日、浦和市(当時)下山口新田の調整池においてシロエリオオハム(以下、シロエリと略記する)が記録された。私がこのことを知ったのは、3月23日付毎日新聞朝刊によってである。

同新聞に掲載されている写真はあまりシャープなものではないが、脇腹後部の白斑が見られず、さらに喉にはぼんやりながら線のあることが見て取れ、シロエリとした同定は妥当なものと考えている。

◇識別のポイント

私は、支部報『しらこぼと』155号(1997年3月号)掲載の「オオハムとシロエリオオハムの識別」という一文において、両種の識別ポイントを文献から引用し紹介した。

すなわち、オオハムには夏羽・冬羽とも脇腹後部に大きな白斑があるが、シロエリにはなく、またシロエリの冬羽では喉のところに黒褐色の線が出るが、オオハムには出ない、ということによる識別である。

本稿はその続編として、実際の観察の結果と照合しながら、両種の識別ポイントをあらためて点検することにする。

||||||| 識別ポイント1 |||

喉の線(chinstrap)

私がこれを実際に目にしたのは、安孫子市

鳥の博物館に展示されている剥製によってである。野外ではちょっと観察しづらい部位に思われた。

この4月、茨城県波崎で、間近にシロエリ3羽を観察する機会に恵まれた。そのうちの1羽は喉にはっきり線が出ていたが、2羽はかすかに見える程度でしかなかった。個体差もあるようだし、幼羽でははっきりしないということもあるので注意を要する。

||||||| 識別ポイント2 ||| 脇腹後部の白斑

野外識別では、これがいちばん確実な識別ポイントではないかと思われる。この大きな白斑が確認できれば、夏羽・冬羽を問わずオオハムと考えてよい。

問題はこの逆のケース。つまり白斑が出ないということだけを根拠としてシロエリと断定して差し支えないのかどうか。

この点に関しては、同好の士の間でも慎重論があるが、私の考えでは「可」としたい。気象・海象の状況にもよるだろうが、穏やかな波間に浮かぶ姿を観察した場合などで、白斑がなければシロエリでよいと思っている。

ある個体を500mほど離れた場所から見て、白斑がないのでシロエリと判断したが、その後、近寄って喉の線も確認でき、間違いなくシロエリだったことも実際にあった。



写真① シロエリオオハム成鳥冬羽



写真② シロエリオオハム幼羽

||||||| 識別ポイント3 |||

下尾筒基部の線 (vent strap)

シロエリには下尾筒基部に黒褐色の線があるが、オオハムにはない。このことを不覚にも私は知らなかった。ある船上で、同好の先達から伺って初めて知った話である。

下尾筒基部となると、通常は見えない部分であるが、腹を見せて羽づくろいをしているときとか、頭上を低く飛んだときなどには見ることができるかもしれない。

この識別ポイントについて文献的な裏付けを捜したところ、『BIRDER』1997年2月号掲載の「アビ類観察の楽しみ」(木村裕一氏)にも記述が見られた。よく読んでいればわかっていたことなのに、またしても自ら不勉強を証明してしまった。

◇船上からの観察

これまでの経験に基づき、気がついたことを述べておきたい。

【飛び方】

首も足も伸ばして、一定の高さを水平にまっすぐ飛ぶ。例が適切でないかもしれないが、米軍の巡航ミサイル「トマホーク」を連想させる飛行姿勢である。

目が慣れてくると、はるか遠くを飛ぶ姿でも、それが少なくともアビ類であることはわかるようになる。

【泳ぎ方・逃げ方】

航路での探鳥経験がある方はよくわかると思うのだが、海鳥が海面に降りて休んでいるようなとき、そこへ船がさしかかると、普通は飛び立って逃げる。ところが、オオハムやシロエリは泳いで逃げることもある(アビやハシジロアビとは、こういう場面に出くわし

たことがないが、同様であろうか)。

翼をばたつかせ、足で海面を蹴り、一見、飛び立つための助走のような動作で、そのまま何百mも飛ばずに逃げて行く。私は、その光景を「泳いで逃げる」と表現したい。足踏み式ボートを漕ぐ姿に例えてもよい。

◇おわりに

気になるのは冒頭に述べた新聞の記事のこと。「太平洋側では珍しい…」というものが、太平洋側にだってシロエリは普通にいる。何しろ日本で見られるアビ類でいちばん多いのはシロエリと言われているのにネ。

写真① シロエリオオハム成鳥冬羽

喉の線がはっきりしている個体。成鳥の目の色はルビー色。

(2001年5月 茨城県鹿島郡波崎町 撮影/長谷部謙二)

写真② シロエリオオハム幼羽

顔から首にかけての白黒部分の境界がぼんやりしており、目が暗色。背中には褐色の濃淡の斑模様が見られる。

(2000年12月 静岡県沼津市 撮影/菱沼一充)

写真③ シロエリオオハム成鳥夏羽

この個体はオオハムと同定されていたが、現在の知見に基づけばシロエリである。

(1989年5月 石川県輪島市舳倉島 撮影/北川慎一)

写真④ ハシジロアビ成鳥夏羽

この春、多くのバードウォッチャーを魅了した個体。本稿とは直接関係ないが…。

(2001年5月 茨城県鹿島郡波崎町 撮影/長谷部謙二)



写真③ シロエリオオハム成鳥夏羽



写真④ ハシジロアビ成鳥夏羽

戸隠・飯綱高原探鳥会①

冨田政裕(藤市)

懐中電灯で照らす足元に気を配り、朝露に濡れた草を踏みしめて歩く。そして小広い草地に到着。まだ夜の明け切らない、戸隠の午前4時。暗い空にズビヤクズビヤク…と飛び交うオオジシギが印象的でした。

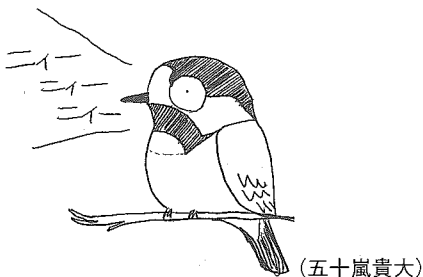
1996年に野鳥の会に入会したものの、名ばかりの会員で5年が過ぎました。これまで独力で160種ほど見ましたが、「一度ぐらいいは探鳥会に参加しないとなあ」と思い、ふだんは仕事が忙しい土、日を休んで戸隠・飯綱高原のツアーに参加しました。

37歳のわたしはどうやらメンバー最年少。参加者の多くは「鳥見の道」のベテランとお見受けしましたが、みなさん気さくでとても楽しい。老若男女のツアーは、大将や子分がそろって遊んだ少年時代の愉快的原っぱを思い出す感じでした。

午前3時の早起きなど、こんな機会でもなければできそうにない。ふだん寝床でいびきをかいている時間帯に、オオジシギは頑張っていたのですね。姿はよく見えないけれど、ゴゴゴゴ…と上空をかすめるさまに、しばし生命の神秘を感じて感動のひとつときでした。

前夜の酒盛りの後にちよいと仮眠、と少々つらい状況ながら、しっかり目を覚ますリーダーに引っ張られて安心できました。鳥以外には山登りが趣味のわたしですが、年輩の方の健脚ぶりにもびっくり。熟年パワーにいい刺激を受けました。

昼はハチクマのディスプレイに遭遇。歩き疲れた後には、宿舎が用意したとおきのお弁当と、これまた甘美な30分の休憩。うらうらと晴れた戸隠牧場での“日本昼寝の会”も最高だったなあ…。



戸隠・飯綱高原探鳥会②

四分一保雄(羽生市)

オオルりに今年も会えた。宝光社の例の場所。昨年に続いて2回目の参加であるが、今年もオオルりに会えた。野鳥の会に加入して2年になるが、カラの仲間の見分けがいくらか出来るようになった。今回は、シジュウカラ、ゴジュウカラ、コガラ、ヒガラ、エナガを見分けることが出来た。キビタキは大豊作であった。初日、飯綱高原、森林公園。2日目は、姿こそ見えなかったが、いたるところで、キビタキの囀りを堪能した。アオジの囀りも大分分かるようになった。今回はノジコの姿と囀りまでゲットした。ミソサザイの囀りもすごかった。あの小さな体で、せいっぱい囀る姿はいつ見ても、感動ものである。戸隠の5月はなんとといっても、最高である。



ホタルブクロ(山内 元)

戸隠・飯綱高原探鳥会③

なや みづき(小2・志木市)

はじめて、しんかんせんにのって、ながのまでいきました。しんかんせんはとってもはやかったです。さんどいっちをかってたべました。とてもおいしかったです。ばすにのってしょくぶつえんにいき、やまの中で五十から、にゅうないすずめと、みそさざいを見ました。小さくってかわいかったです。黄色いかえると赤いかえるを見ました。赤いかえるが黄色いかえるをおぶっています。お川でささぶねをながしてあそびました。ぼくじょうでごはんをたべて、しんかんせんにのってかえりました。とてもたのしかったです。またつれてってください。ありがとうございました。

カラーリングのチョウゲンボウ

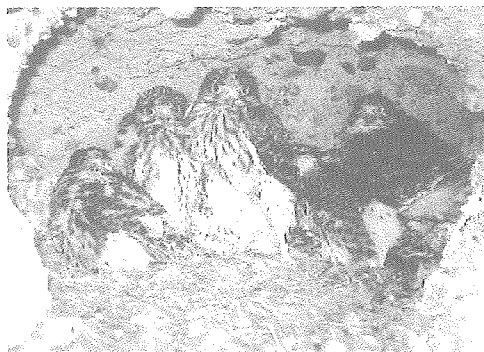
栃木県支部河地辰彦氏からの連絡によれば、今年の箒川のチョウゲンボウは、昨年秋に新築した「新2号」の巣穴も利用して、10年ぶりに4つがい繁殖、合計20羽も巣立ちして巣穴の周囲を飛び回っているとのこと。

その詳しい様子は、
栃木県支部のホームページ

<http://www.5.justnet.ne.jp/~oruri/>と、
河地氏のホームページ

<http://www.5.ocn.ne.jp/~cardis/>
で紹介されています。

今年も巣立ち雛にはカラーリングをつけたので、見かけたら、その色、いつどこで何をしていたかなどの情報を、河地氏のメールにご連絡ください。



巣穴の中の雛たち（河地氏のHPから）

アカガシラサギの報告

海老原美夫（さいたま市）

私が創刊号から前月号（第208号）までの『しらこぼと』の野鳥情報などの資料から整理したところでは、アカガシラサギの県内の過去の記録は次の通りです。

1974年5月新座市、1977年1月川越市、1982年5月浦和市・北本市、1986年11月本庄市、1988年5月浦和市・本庄市、1991年11月浦和市、1996年5月朝霞市、2000年8月大宮市。
平均して2～3年に1例程度の頻度でした。

ところが今年は

6月岩槻市（鈴木紀雄）、
7月戸田市（倉林宗太郎）

7月妻沼町（渡辺俊朗）

と3例も相次ぎ、昨年8月のものと合わせると、2年で4例というハイペースになっています。

アカガシラサギは本来熱帯から亜熱帯の地域に多く生息します。そのことから、これも今年の夏の高温のせいと考える向きもありますが、当然ながら正確なところはまだわかりません。

とりあえず、そんな状況だということだけを報告しておきます。



7月28日戸田市道満にて（海老原）

—— はみだし行事案内

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：10月20日（土）～21日（日）

集合：20日午前9時10分、JR長野駅コンコース（新幹線改札を出て右側）。

交通：長野新幹線「あさま551号」（東京7：00→大宮7：26→熊谷7：40→高崎7：54→長野8：50着）、または「あさま1号」（東京7：32→大宮7：56→長野8：57着）

費用：11,000円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）。

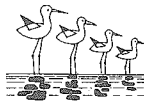
申し込み：往復葉書に住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、菱沼一充

まで。

担当：菱沼（一）、北川、藤掛、中里

見どころ：新そばとキノコ汁、秋の味覚を楽しむ。そんな戸隠にあなたもどうぞ。マミチャジナイ、ムギマキなどの旅鳥と冬鳥が楽しめます。

注意：宿は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。



野鳥情報

横瀬町県民の森 ◇4月28日、コルリ、ツツドリ、クロツグミ、ヤブサメ、センダイムシクイ、オオルリ、イワツバメ、シロハラ。5月5日、コルリ4羽、キビタキ2羽、ツツドリ、クロツグミ、ヤブサメ、センダイムシクイ5羽、イワツバメ、ノスリ。この日のハイライトは、2羽のコルリを10分程至近距離で見たこと。人が通るとヤブに入り、すぐ出てくる、を繰り返して2m位まで近づいたこともあった。5月12日、コルリ、ツツドリ、キビタキ、クロツグミ、ヤブサメ、センダイムシクイ、イワツバメ、オオルリ（小林茂・ますみ）。

所沢市山口 ◇5月20日、カッコウ初認。5月30日午前1時30分、ホトトギス初認。就寝しようとしたら鳴き声が聞こえた（小林ますみ）。

比企郡玉川地内 ◇5月22日、都幾川、坪ノ内橋上流200m～300m付近、雀川の合流との間でオシドリ♂3羽♀3羽。先週も見かけましたので1週間位前からいるようです。その他、その付近でカワセミ1羽、ホトトギス複数の鳴き声（サイトウシゲル）。

滑川町 ◇6月4日正午頃、興長禅寺の前でホトトギスが2羽、鋭く鳴きながら頭上を飛びました。近くの水田にはアマサギ4羽（三原昇三）。

川本町上原 ◇6月9日午前6時頃、自宅近くの養鰻池の上空数メートルをキョクアジ

サシに似ている鳥が旋回していた。翼は細長く、コアジサシに似ているが、尾が細く長く翼より伸びていて、一本になっている（割れていない）。頭は黒く、嘴は朱色で下を向けて飛ぶ。背は濃い灰色、腹は白。空中で旋回しながら時折静止し、急降下して小魚をキャッチしている様だった（大澤あつし）。

入間市宮寺 ◇7月2日午後7時30分頃、大森調節池でツバメ、イワツバメ、ヒメアマツバメが30羽位の混群で飛び回っていましたが、その中の1羽は真っ白でした。確認できる前30分の間に2回目撃していましたが、遠目だったので目の錯覚ではないかと思っていました。10m位の所を通過していった時に確認できました（石澤直也）。

川越市南古谷 ◇7月4日、休耕田でコアジサシ3羽。コチドリ20羽以上、幼鳥も混じっていた。コサギ約20羽、チュウサギ約10羽、ダイサギ3羽、アオサギ5羽（鈴木紀雄）。

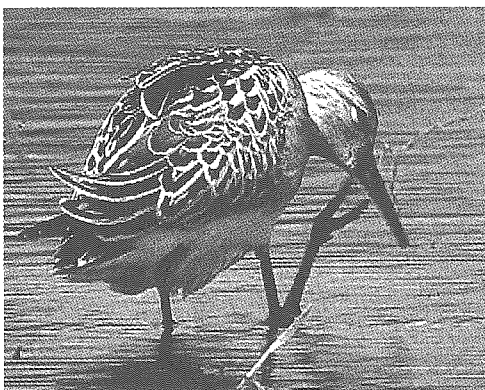
上尾市中分氷川神社 ◇5月12日午前6時15分、キビタキ♂1羽、さえざりと姿を確認。今年初認（立岩恒久）。

桶川市若宮 ◇5月16日午前9時、カッコウ1羽、自宅マンション5階ベランダより南方のアンテナで鳴いていた。今年初認。6月3日午後4時、自宅前の植込みで巣立ちまもないシジュウカラファミリー数羽でオオミズアオと格闘の末、胴体から食べるのを見た。同日午後9時15分、ホトトギス1羽、自宅北側の窓から「トッキョキョヨヨ……」と2回鳴きながら北の空へ消えていった（立岩恒久）。

さいたま市プラザ ◇5月16日午後7時29分自宅前の道路で与野方面から上尾方面にホトトギスが鳴きながら通過。6月5日、午前5時20分頃及び6時55分、カッコウの声を聞く（松木勝彦）。

さいたま市指扇 ◇5月20日、JR指扇駅下りホーム跨線橋階段付近にキジバトが巣材を運ぶのを観た。6月6日現在抱卵中（松木勝彦）。

さいたま市岸町 6月18日、調（つきのみや）



エリマキシギ（編集部）

神社でアオバズクの声（江浪功）。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇7月4日、大久保農耕地B区でヨシゴイ1羽（鈴木紀雄）。

川口市差間 ◇6月12日、見沼芝川第1調整池周辺でコアジサシ2羽、ヨシゴイ1羽、カッコウの鳴き声。6月30日、コアジサシ5羽。カッコウが送電線にとまって鳴いていた（鈴木紀雄）。

戸田市道満グリーンパーク ◇7月6日、釣り堀でアカガシラサギ夏羽1羽、ササゴイ、ゴイサギ（倉林宗太郎、星野政一、陶山和良）。◇7月10日、釣り堀の林でコムドリ♂1羽、幸魂大橋下でエナガ若鳥1羽（倉林宗太郎）。

蓮田市黒浜沼 ◇5月26日午前7時頃、上沼で魚を捕っているアジサシがいました。いつものコアジサシかと思って双眼鏡を覗いたところ、腹部が黒いので、最初泥でもついているのかと思っていたのですが、魚を捕った後も黒いし、もう1羽飛んできたアジサシも黒いのです。黒いベレー帽に腹部は黒。図鑑で調べたところ、「ありました」。観たのとまったく同じ鳥。クロハラアジサシ！ 感動。帰宅後「7時半頃クロハラアジサシらしきものを観た」との連絡が伊藤さんから入る。確信をする（田中幸男、伊藤泰一郎）。◇7月3日、カイツブリ親子4組ほどが水面のあちこちに浮いていた。ヒナは1羽～3羽（鈴木紀雄）。

鷲宮町桜田 ◇6月3日、沼井公園でマガモ20羽以上が居残り。昨年、町が公園の環境を整備し、水鳥の数が増え、近くの住人が餌をやっているようです。いつもは4月には飛び去るのに、今年は一向にその気配がありません。人にもすっかり慣れたようで群れを組んで歩き回っており、まるでアヒ



ツツドリ（編集部）

ルです。このままで大丈夫か心配です。その他パン4羽、カイツブリ4羽、カルガモ複数（倉林謙次）。

岩槻市長宮 ◇6月13日、川通公園の野球場造成地でコアジサシ約15番い繁殖中。ヒナ6羽確認。6月22日、コアジサシのヒナ12羽以上確認、大小さまざま。6月27日、すでに飛べるようになったヒナ5羽、その他のヒナ6～7羽。7月2日、ヒナ13羽確認、飛べるのもいる。生まれたてで親が卵の殻をくわえて捨てて行くところも観察。コチドリも繁殖中（鈴木紀雄）。

幸手市神扇 ◇6月23日、釣り堀の傍の水路でカワセミ1羽（狩野）。

幸手市天神島神社近くの休耕田 ◇6月23日、ムナグロ1羽（徳田、狩野）。コチドリ2羽（徳田）。

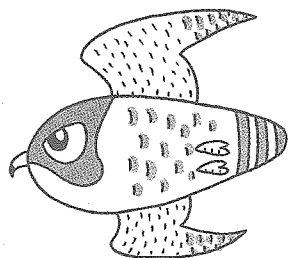
越谷市恩間新田 ◇7月3日、農家の林でサギのコロニー。数百羽程か。コサギとゴイサギが多い。チュウサギも混じっていた。土地の人の話によると4、5年前まで来ていたが、それから来なくなり、今年再び来たのだそうです（鈴木紀雄）。

表紙の写真

ササゴイ（コウノトリ目サギ科アカガシラサギ属）

戸田市道満釣り堀の林で6巣位繁殖。まだ抱卵中の巣から、巣立った幼鳥が親に餌をねだるところまで、様々な段階が同時に見られて一時期にぎやかだった。この写真はそのころ羽づくろいをしていた親鳥。そんな平和なササゴイ世界は、ある日20羽ほどのカラスに襲われて突然全滅。カラスにも七つの子がいたに違いないが…。すでに巣立っていたササゴイ幼鳥は生き延びて、その後も元気に釣り堀の魚をいただいていた。 蟹瀬武男（さいたま市）

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

リーダー研修会

期日：9月2日(日)

会場：北本市中央公民館

詳しくは8月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：島田、森本、中里、倉崎、松本、高橋、後藤、藤田

見どころ：時折ふき抜ける風に秋の訪れを感じるなか、猛禽類、ショウドウツバメが天空に舞い、トケン達は好物を狙い桜の木に、シギ、チドリ達は水辺で英気を養っています。

シギ・チドリ類調査

期日：9月15日(土・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回、シギ・チドリ類の調査を行っています。それほど堅苦しいものではありませんので、多くの会員の参加・ご協力をお願いいたします。

◆秋ヶ瀬(さいたま市)

集合：午前9時30分、大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グラウンド入り口。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定です。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

「しらこぼと」袋つめの会

とき：9月15日(土) 午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：今年の夏は本当に暑かった。エアコンを効かせた部屋にばかりこもって居たのではないですか。そのような方におすすめの案内です。最新号の『しらこぼと』が読めて、鳥情報も入手できて、秋の行動計画に弾みが付く。いかがですか。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月16日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立郷土博物館前。

後援：さいたま市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、兼元、森(力)、清水、小菅

見どころ：暑い、暑い夏でした。それに子供の時によく味わった夕立も今年はよくあって、なつかしく楽しいものでした。暑さの反動からいい秋になりそうだ。鳥たちもそろそろと戻ってきました。見沼たんぼの鳥たちに会いにおいでください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月16日(日)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8：24→坂戸にて越生線乗換え8：43発。または寄居7：26→小川町乗継ぎにて坂戸乗換え。JR川越線大宮7：55→川越にて東武東上線乗換え。

担当：藤掛、高草木、石井（幸）、青山、久保田、志村、増尾、佐藤、吉田

見どころ：うだるような暑さが続いた今年の夏、まだまだ厳しい日々ですが、野鳥たちは元気に飛び回っています。水辺の鳥、山野の鳥との思いがけない出会いに期待して、お出かけください。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月22日（土）

集合：午前9時30分、松伏記念公園入口広場。

交通：東武伊勢崎線北越谷下車、東口①番バス乗り場から9：00発エローラ行きに乗りにて、「松伏高校前」下車。

担当：橋口、大塚、神場、小菅、田邊、本田

見どころ：松伏での探鳥会も3年目になりました。珍鳥はいませんが、田園地帯に接する住宅地の探鳥会としてはそれなりに楽しめます。シラコバトが通年観察できる場所ですし、秋口には4種の白いサギが1枚のたんぼで観察でき、その違いが比較できます。サギのねぐらが散ってしまったので、集合は午前中に変更しました。

タカの渡り調査

期日：9月22日（土）または23日（日）

恒例の調査、一日空を眺めているだけで貴重なデータが得られます。初めての方も気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止。調査のため参加費は不要です。

◆天覧山（飯能市）：23日

集合：午前9時から正午まで、ご都合の良い時間に山頂展望台へお越しください。近くに水洗トイレあり。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。

担当：佐久間

他に下記の地点でも調査を行います。

◆物見山駐車場（東松山市・鳩山町）：22日

◆少年自然の家（小川町）：22日

◆世界無名戦士の墓（越生町）：22日

調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方はご都合の良い時間にお越しください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月23日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8：42発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光

見どころ：厳しかった夏も去って、入間の河原には秋の草花が咲いています。カワセミや渡って来たばかりのコガモを探しながら河原を歩きましょう。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：9月30日（日）

集合：午前8時50分、JR高崎線本庄駅北口。

集合後、十王バス新伊勢崎行きにて「坂東大橋南詰」下車。または午前9時30分、現地集合可。駐車は土手側にのみお願いします。

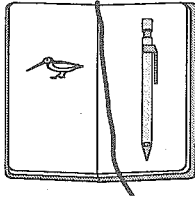
担当：北川、倉崎、堀（敏）、堀（久）、小池（一）、小池（順）、藤田

見どころ：秋の河原をのんびり歩きましょう。渡りの途中のノビタキやショウドウツバメ、シギ・チドリに出会えるかも知れません。

行事案内は5ページにもあります。



タカブシギ（編集部）



行事報告

4月21日(土)『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 21人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、江浪功、大坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、島田貴子、志村佐治、玉井正晴、納谷美月、成瀬慶一、原田譲、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、百瀬修、山野豊、渡辺嘉男

4月22日(日) 東松山市 物見山

参加: 50人 天気: 快晴

カルガモ サシバ コジュケイ キジバト コゲラ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤブサメ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
ハシブトガラス (23種) 声はすれども姿は見えず。参考記録のセンダイムシクイ、アオゲラ、箆抜け鳥ガビチョウも声のみ。今回は鳴き声の勉強と、新緑の里山散策を楽しんでもらった。救われたのは、満開のツツジの花を見ながら昼食をとれたことだった。(藤掛保司)

4月29日(日) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 19人

石井智、池内輝明、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、久保田忠資、倉林宗太郎、佐久間博文、志村佐治、白井聡一、杉原みつ江、陶山和良、高尅彦、高文子、納谷美月、長谷部謙二、日比野進、藤掛保司、渡辺嘉男

4月29日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 48人 天気: 曇

カワウ コサギ カルガモ ツミ コジュケイ キジ コチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス

ハシブトガラス (29種) 公園の池からスタートし、堅穴式住居広場の林でアオジのさえずりに聞きほれ、姿もじっくりスコープに入れる。更に今年もコムクドリの♀♀が出現し、みんなで盛んに見入る。更に歩を進め、管理事務所の駐車場でモズの求愛給餌をじっくり見る。雑木林のお墓付近で、今年もまたツミ♀が出てくれた。今年もムナグロは出現せず。昨年より多い出現数で、満足してもらえた探鳥会であった。(吉安一彦)

4月30日(月、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 8人 天気: 雨

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ バン シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ ニシトウネン トウネン ハマシギ アオアシシギ キアシシギ ソリハシシギ オオソリハシシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ ユリカモメ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 小雨で決行したが、潮が引くにつれて海からシギ・チドリがやってきた。利休鼠の風景の中で夏羽の鳥が彩りを添えてくれる。ニシトウネンはしっかりと観察できたし、アオアシシギの声も楽しめた。しかし寒かった。(杉本秀樹)

4月30日(月、休) 蓮田市 黒浜沼

雨のため中止。

5月5日(土、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 82人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ハヤブサ バン オオバン コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ウズラシギ ハマシギ オバシギ キアシシギ ソ

リハシシギ オオソリハシシギ ホウロクシギ
 チュウシャクシギ ユリカモメ コアジサシ キ
 ジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ
 モズ ツグミ オオヨシキリ セッカ メジ
 ロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハ
 シボソガラス ハシブトガラス (43種) 潮の引き
 際は佃煮状態。初めての人は少々混乱気味。夏羽、
 幼鳥羽、オス、メスの違いを見てもらう。最後は
 ハヤブサが出て、一斉の乱舞で終わる。忘れた頃
 に秋の渡りが始まる。 (杉本秀樹)

5月12~13日 (土~日) 長野県 白馬山麓

参加: 25人 天気: 晴

カイツブリ アオサギ オシドリ マガモ カル
 ガモ コガモ キンクロハジロ イカルチドリ
 ハチクマ トビ ノスリ ハヤブサ キジ キジ
 バト ツツドリ ジュウイチ フクロウ カワセ
 ミ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバ
 メ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セ
 グロセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ
 ミソサザイ コルリ クロツグミ アカハラ ヤ
 ブサメ ウグイス オオヨシキリ メボソムシク
 イ センダイムシクイ キビタキ オオルリ コ
 サメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ
 シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ
 ホオアカ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ
 イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ
 ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガ
 ラス (63種) 雪解けが遅かったために、色々な自然
 の表情が楽しめた。居谷里湿原のスミレの種類
 の多さ (12種) に驚き、貞麟寺でギフチョウとヒ
 メギフチョウに感動し、姫川源流のスナヤツメの
 群れに目を丸くし、早朝の「いっぽ」周辺の散策
 ではオオルリ、キビタキ、ノジコ、コルリ、クロ
 ツグミなどの野鳥のコーラスに聴き入るなど、63
 種の野鳥、54種の山野草、13種の樹木、17種の昆
 虫など参加者の心の中に白馬の大自然がじわあつ
 と広がっていった2日間だった。 (小池一男)

5月13日 (日) 熊谷市 大麻生

参加: 45人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
 ギ マガモ カルガモ トビ コジュケイ キジ
 バン キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハク
 セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウ

グイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ
 メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクド
 リ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
 (31種) 真夏並みの暑さのためか、鳥の姿も声も
 少ない。先月の探鳥会の結果がうそのように思え
 た。出現鳥は特に珍しいものはなかったが、堰上
 流でマガモの親子のほほえましい姿やパンの夫婦
 が見られた。 (和田康男)

5月16日 (水) 栃木県 奥日光

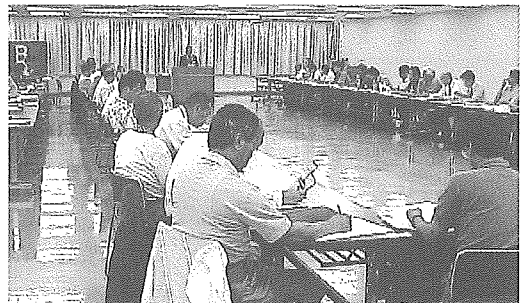
参加: 26人 天気: 小雨後曇

マガモ トビ オオジシギ キジバト アカゲラ
 コゲラ イワツバメ キセキレイ セグロセキ
 レイ モズ カワガラス ミソサザイ コルリ ノ
 ビタキ ウグイス メボソムシクイ エゾムシク
 イ キビタキ コサメビタキ エナガ コガラ
 ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ
 ホオジロ ホオアカ アオジ ニュウナイスズ
 メ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
 ラス (33種) 湯場でイワツバメやニュウナイスズ
 メを確認後、小雨が降り出し、出現鳥も少なく、
 いやな出だしだったが、湖畔ではエゾムシクイや
 キバシリ、湯滝ではカワガラス等を見ることがで
 きた。途中で雨も上がり、湯川ではキビタキやコ
 サメビタキを、戦場ヶ原ではアカゲラ、アオジ、
 ホオアカ、オオジシギ等を、全員が時間をかけて
 見ることができ、大満足してもらえた探鳥会だっ
 たと思う。 (中村榮男)

5月19日 (土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 15人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、海老原教子、大坂幸男、
 尾崎甲四郎、佐久間博文、島田沙織里、島田貴子、
 志村佐治、陶山和良、藤掛保司、藤野富代、増尾
 隆、松村禎夫、渡辺嘉男



第27回評議員会 (記事 P12)

連 絡 帳

● 第 27 回 評 議 員 会 (臨 時)

7 月 14 日 (土) 午後、都内新宿区で開催(写真 P11)。関東ブロック選出評議員の一人として海老原美夫副支部長、傍聴人として橋口長和幹事が出席。新執行部選出の経緯・「鳥とみどりの特別審議会」の答申などについての報告を受けた後、補充役員 2 名の選出・寄付行為一部改正案などを審議承認しました。

当日午前中には評議員制度検討委員会が開催されて海老原が委員として出席、評議員会後には、関東ブロックの評議員が集まり、評議員・理事の選出方法などについて話し合いました。

● 記録映画「今森光彦の里山物語」上映会

主催・会場:さいたま市立大古里公民館

協力:日本野鳥の会埼玉県支部

日時:9 月 29 日 (土) 午後 2 時から

作品紹介とお話し:「映画の故郷を訪ねてーそして見沼」楠見邦博監事 (入場無料)

申し込み:電話で公民館(TEL 048-810-4155)

へ。先着順・定員 80 名位。地元優先の原則ですが、空席がある時は地域外の方も可。

● 普及活動

6 月 9 日 (土) さいたま市三室地区で、市立浦和博物館と三室公民館共催の親子探鳥会が開催され、楠見邦博・倉林宗太郎・森力・楠見文子が指導しました。

7 月 8 日 (日) 坂戸市鶴舞地区で、高麗川を考える会第 12 回野鳥観察会が開催され、増尾隆・増尾節子・坂口稔・坂口和子が指導しました。

● 9 月の事務局 土曜と日曜の予定

8 日 (土) 編集部会議・研究部会議。

15 日 (土) 9 月号校正。

16 日 (日) 役員会議。

22 日 (土) 袋づめの会。

● 会員数は

8 月 1 日 現在 2,791 人です。

活 動 報 告

7 月 13 日 (金) 普及部便り発送(海老原教子、楠見文子)。

7 月 13 日 (金)、14 日 (土) 8 月号校正(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司)。

7 月 15 日 (日) 役員会議(司会:橋口長和、9 月号発送方法・年末講演会・関東ブロック協議会出席者・その他)。

7 月 23 日 (月) 8 月号発送(倉林宗太郎)。

編 集 後 記

群馬県在住の会員から、伊香保森林公園の水場に、埼玉ナンバーの車で来た 20 名ほどの団体カメラマンが、水際まで降りたり大声で話したりして大変困ったとのメール。

彩湖脇の林では、カメラマンたちが切ったという無残な木の切り跡。

マナーをうるさく言われるから、野鳥の会には入らないと公言するカメラマンたちがいる。

万一会員なら、マナー重視を厳重に呼びかけたいが、会員ではない人達にはどうしたらよいのだろう。頭が痛い。(海老原美夫)

「尾瀬に行きたい、夏だから」と単純思考。

至仏山から山ノ鼻、尾瀬ヶ原を抜け、見晴で一泊。

よくよく考えたら 30 年前にも尾瀬に来ている。その時に比べペースがずいぶん落ちている。景色や鳥、高原植物に目を奪われることが多いのも、原因のひとつに違いない。(山部直喜)

しらこぼと 2001 年 9 月号 (第 209 号) 定価 100 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階

(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社